

令和7年度事業計画

【現状と課題】

令和6年度のいわて花巻空港の利用者数は、482,092人（前年度比101.1%）と、前年度を僅かに上回った。

前年度から増加した要因としては、国内定期便が便数の減少により横ばいであった一方、休止中の上海線が期間限定で運航したことなどにより国際線が増加したことや、国内・国際ともチャーター便が増加したことなどが考えられる。

令和7年度は、大阪・関西万博が開催されていることから、いわて花巻空港でもこれを契機とした利用促進を図っていく必要がある。

1 国内線について

令和6年度の国内定期便の利用者数は444,294人となり、前年度（444,054人）比100.1%、240人の増加となった。なお、利用率は69.9%と前年度を5.0ポイント上回っている。

令和5年度下期ダイヤ以降、一部の路線で便数が減少しており、現在も継続していることから、航空ネットワークの維持・利便性向上に向けた取組を強化する必要がある。

2 国際線について

令和5年5月に再開された台北線が通年で運航されたことや、休止中の上海線が期間限定で運航されたことにより、令和6年度の国際定期便の利用者数は34,515人となり、前年度（30,975人）比111.4%、3,540人の増加となった。一方、利用率は85.8%と前年度を5.7ポイント下回ったが、依然として高い水準にある。

台湾から東北の他空港へ直行便が就航している状況を踏まえ、台北線の維持に向けた更なる利用促進や、上海線の継続的な運航、その他国際便の運航拡大に向けた取組を進める必要がある。

こうした状況を踏まえ、令和7年度は次の事業に重点的に取り組んでいく。

重点方針

1 国内線利用促進事業

- 開港 60 周年記念事業の実施を通じて得られた県内外の関係機関とのつながりを生かし、各種事業やプロモーションに取り組み、いわて花巻空港の利用促進を図る。
- 令和 5 年度下期ダイヤ以降、便数が減少している札幌線・名古屋線への重点的な利用促進施策を展開し、需要の底上げによる早期復便を目指す。
- 就航 5 年目となる神戸線についても、双方向の利用促進に重点的に取り組み、運航の安定化を図る。

2 国際線利用促進事業

- 台北線の安定的な運航に向けて、航空会社や旅行会社に対する支援を行うとともに、現地でのプロモーションによるインバウンド利用の促進や、若年層の利用促進によるアウトバウンド需要の拡大など、双方向の利用促進に取り組む。
- 上海線の継続的な運航に向け、航空会社への働きかけを行う。
- 国際線の路線拡大に向け、航空会社や旅行会社に対し、チャーター便の運航を働きかけていく。